

聴こえやすい環境づくり

* 今回の資料は、普通学校に通う人工内耳装用児・補聴器装用児への学校支援について記されている「**難聴児童生徒へのきこえの支援―補聴器・人工内耳を使っている児童生徒のために**」財団法人 日本学校保健会著 を参考に作成しました。

* また、この資料は、2010 年 3 月に「横浜保育室：K 保育園」の保育士研修を依頼された際に作成した資料を改定したものです。

【補聴器を使っているお子さんのきこえ】

- ◆ 補聴器をつけているお子さんは、補聴器を外すと、補聴器装用の状態に比べると会話を十分に聞き取ることができません。
- ◆ 補聴器をつけて会話の音を増幅して大きな音にすると、声の聞き取りができるようになり、やり取りが可能となります。

しかし・・・

- ◆ 難聴のお子さんには聞き取りやすい音と聞き取りにくい音があり、補聴器では聞く音がひずんで聞こえるなど、言葉として聞き取りにくい場合があります。
- ◆ 騒がしい部屋では、周囲の騒音も会話音も同じように増幅されて大きくなるために言葉の聞き取りは難しくなります。

【人工内耳を使っているお子さんのきこえ】

- ◆ 人工内耳をつけているお子さんは、人工内耳を外すと、静かな部屋でどれだけ大きな声で話しかけても話声をききとることはできません。
- ◆ 人工内耳をつけていれば静かなところでは、ことばの聞き取りができて、補聴器と同様に騒がしい部屋では、会話の聞き取りは難しくなります。

* 補聴器にも人工内耳にも、雑音制御の機能はありますが、我々、健聴者のように騒音下で選択的に言葉を聞くことは非常に難しいことです。

【集団生活で困っていること】

- ① 先生の話が聞きづらい時
 - ◇ 周囲の音がうるさい時
→大切なお話の場合は、静かな場所に移動してお話をしてあげましょう。
 - ◇ 先生の口元や表情が見えない時

→お子さんの背の高さになってあげて、表情や口元が見えるようにしてあげましょう。

✧ 先生がお話しているときのお友達の発言

→必要に応じて、お友達の発言を、先生がもう一度繰り返してあげましょう。

✧ 椅子や机を動かす音がしている時

→周囲の音が静かになってから、お話してあげましょう。難しい場合は、指差しや簡単な視覚的な手掛かりを提示してあげましょう。

② 遊び（自由）時間で聞きづらい時

✧ 周囲がうるさい時

③ 外遊び・集会など

✧ 距離が離れている時

→背の順番などではなく、なるべく前の方に立たせてあげたり、先生の顔が見える場所に移動させてあげる配慮が必要です。

✧ 避難訓練などのアナウンスを聞く時

→非常ベルが聴こえてもその後の指示が聴こえていない場合があるので、1 対 1 で説明してあげましょう。避難訓練について事前に説明しておいてあげることも大切です。

✧ 集会など大きな集団の中での話を聞く時

→補助の先生が横について全体の話のを要約してあげるなどの配慮が必要です。

→園によっては、FM システムなどをご活用くださることもあります。

④ 音楽・リズム遊び

✧ 歌い始めや歌詞

→歌い始めは（必要であれば）合図をしてあげましょう。歌詞は事前（事後）に親御さんに渡してあげてもいいでしょう。

*すでに上記にもお子さんへの配慮を記しましたが、以下にまとめておきます。

【難聴児への配慮】

① 教室環境

✧ 大切な話をする時はなるべく静かな場所で話しましょう（必要であれば 1 対 1 で話すことも大切です）。

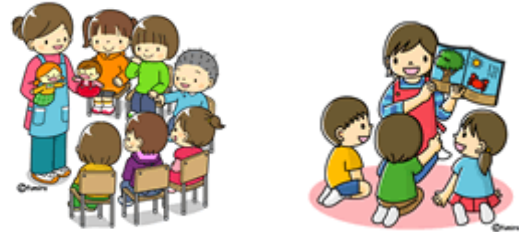
✧ ドアの開閉時など、大きな音が出ないように工夫をしましょう。

✧ 机や椅子は持ち上げて運び、引きずらないようにしましょう（他のお子さんへの理解を深めていくことも大切です）。

✧ 教室の窓のカーテンを引くだけでも音の反響が少なくなり聞き取りやすくなります。

② 座席の位置

- ✧ お誕生日順や背の順ではなく、その子に合わせて座席の位置を考えましょう。
- ✧ 先生の表情や指示が見やすい位置、教室全体の雰囲気が見わたせる位置にしましょう。
- ✧ 先生の口元が逆光にならない場所を考えましょう。
- ✧ 良聴耳（よく聴こえる方の耳）から声が入ることを配慮しましょう。



③ 話し方の基本

- ✧ なるべくお子さんの近くで話しましょう。
- ✧ 顔を見て話しましょう。
- ✧ 集団の中では特に後ろから話しかけても聞き取れません。相手が気づいてから話し始めましょう。
- ✧ 周囲がうるさい時は特に、普段よりやや大きめの声、はっきりした声、口元をしっかりと見せ、少しゆっくりと、表情豊かに話しましょう。
- ✧ 文は簡潔に、必要に応じて、分節レベルで区切りながら話しましょう。しかし、「う・さ・ぎ」のように 1 音ずつ区切って話すとかえって分かりづらいので、気を付けましょう。

④ 理解を深める工夫

- ✧ 視覚的な補助がとても有効です。テーマに合わせて提示する視覚教材の工夫をしましょう。
- ✧ 板書（保育園であれば、絵描き歌など）は大切ですが、板書した後、顔や口元を見せて説明しましょう。

⑤ 音楽

- ✧ 歌唱では音程の正確さを求めず（聴覚障害児が正しい音程で歌うことは困難です）、フレーズの流れを感じ取り、楽しく歌うことを大切にあげましょう。
- ✧ 歌う位置はほかのお子さんの歌う様子や口の見える場所にしましょう。
- ✧ 年中～年長さんであれば、大きな歌詞カードを提示したり、歌い始めの合図を送って練習するようにしましょう。
- ✧ 時には、隣のお子さんと向かいあって歌ったり、合奏したりすることも効果的です。
- ✧ 大きな音の出る打楽器の近くは不快でないか、様子を見ましょう。



⑥ 運動遊び

- ✧ 水遊びなど補聴機器が濡れる可能性がある場合は外しましょう。（タッパなどに保管し、なくさないようにしましょう…保管の仕方については、親御さんとの話し合いを持たれることをお勧めします。）
- ✧ 補聴機器を外すと何も聞こえないので、事前に活動を伝えたり、小さなホワイトボードやノートなど絵などで簡単に説明できるようにしておくといいでしょう。
- ✧ プールなどで耳や耳の中、髪の毛が濡れてしまった時はよく乾かしてから補聴機器を装用しましょう。
- ✧ ボール運動やマット運動で頭に衝撃を受けることがないように配慮しましょう。
- ✧ 公園や園庭など広い場所や雑音が多い場所では聞き取りにくくなります。説明や指示はお子さんの前で行い、モデルや絵で示すなどの工夫をしましょう。
- ✧ 集合時は必要に応じて、ホイッスルなどだけではなく、小旗や太鼓、手を打つなど、お子さんが目で確認できるようにしましょう。
- ✧ 整列するときは、一番前よりも先生も見えてなおかつ全体の様子が少しわかる（少し後ろ）方が状況を把握しやすくなる場合があります。

⑦ 園・学校行事

- ✧ 集会では事前に少し説明しておくのと、理解しやすくなります。近くで補助の先生が説明してあげてもいいでしょう。
- ✧ 発表会などあらすじの分かるものを事前に渡しておくのもいいでしょう。
- ✧ 遠足や見学などでは事前にパンフレットを渡しておいて家庭で扱っていただいたり、訪問先での説明はうまく聞き取れないので、補助の先生が近くで説明してあげるといいでしょう。

⑧ 安全指導

- ✧ お昼寝がある場合は、補聴機器を外してしまうため、そのお子さんの居場所を確実に把握しておく必要があります。緊急時は大声で呼ばれても気づくことができないことがあります。暗闇で見ることもできない場合、不安な状態になります。

資料：聴こえやすい環境づくり

- ✧ 避難訓練では事前に簡単な説明をしておきましょう。非常ベルや緊急放送のアナウンスが聞こえない場合があるので、他のクラスの先生方とも協力体制を作っておくことが大切です。
- ✧ 周囲の騒音によっては、後ろからの車の音やクラクションが聞こえないことやどこから音が聞こえているのか分からない場合があります。また左右で聴こえ方（聴力）が異なる場合、危険の迫る方向が分からないことがあります。
- ✧ 保護者との連携を密にして、情報を交換しておくことが大切です。